

6 予算特別委員会における柳下県議のしめくくり総括質疑

2012年3月16日

Q 柳下委員 日本共産党の柳下礼子です。質問させていただきます。

県立小児医療センターについてお聞きします。

昨日、この県庁に患者家族の会と周辺自治体の存続を求める会の皆さんが署名提出に来られましたが、持ち寄った署名は3万8,400筆、前回分と合わせて5万3,402人となりました。

移転先であるさいたま新都心という場所は、決して静かな環境とは言えません。私は、本日、患者家族の方のお手紙を紹介します。

「県立小児医療センターの移転は反対です。私の甥は、20年前に小学校6年のときに脳腫瘍になり、余命6か月と言われました。手術はしたものの、脳幹に腫瘍があり、手をつけることができませんでした。あの当時は、県立でありながらMRIがなく、がんセンターまで子供たちは検査に行ったのです。甥は、白血球が下がっていたので、検査をすることができませんでした。個人病院でもMRIがあるのに、県立でMRIがないという現実にびっくりして、姉夫婦と署名運動した結果、数万人の署名をいただき、県に提出。MRIの設置をすることになりました。病院からは感謝の言葉をいただきましたが、そのときには、甥はもういませんでした。あの病院の、余命を感じながら静かに笑顔を見せる子供たち、聞いたこともない病気の子供たちが今でも浮かんできます。静かなところで大切な時間を過ごす権利が子供たちにはあると思います。新都心は、アリーナや商業施設で若者や家族が楽しく過ごす場所です。新都心に移転しようという動きをする人たちは、あの病院の中で苦しんでいる子供たちの姿を見てほしい。重症の子供たちは静かに過ごしたいのです、緑の見える安らぐ場所で。苦しみに耐えている子供たちをビルの中へなんてとんでもない。静かに大切な時間を過ごしてほしいと心から願っています」、こういったお手紙でした。

そこで、伺います。このような小児病棟の子供

たちは長期の病に立ち向かい、大変なストレスを抱えながら過ごしています。新都心という地域は、難病の子供たちにとってふさわしい療育環境とは思えないのですが、いかがでしょうか、知事よりお答えください。

A 上田清司知事 今、柳下委員は難病と言われましたが、一般的に言うと重度だという言い方でもさせてもらってよろしいでしょうか。

小児医療センターの開院当初は、軽症患者が多かったことから、建物の外でも散策をしたり楽しんでいただくようなことが多かったんですが、しかし現在では、重症の、重度の患者が多くなったことから、感染のおそれなどを考慮して、建物から出ることには認められておらないんですね。

もともと高度専門医療機関であります小児医療センターでは、重症の患者が多いため、治療や療養そのものは室内で行っております。例えば免疫力が低下している小児患者への感染を防止するために、入院患者の兄弟ですらも面会を禁止したりする場合がありますし、また、先天性心疾患の手術で人工呼吸器をつけた患者や小児白血病の患者などは、厳密な環境管理をした室内での療養を余儀なくされています。さらに、入院患者が隣接する特別支援学校へ通学するためにも、外部の環境と隔てられた専用の渡り廊下を通して、外気と接触しないような構造にしているぐらいです。また、病室から出ることのできない入院患者については、支援学校の教員が病棟に出向いて、ベッドサイドで授業を教えたりしております。

こうした外出が困難なお子さんのために、さいたま新都心に建設する新病院では、建物内のテラス、デッキ、中庭などに緑を配して、心地良い空間を作ろうと。また、子供が楽しく過ごせるプレールームや、年齢や性別を考えた病室デザインにより患者のアメニティを向上させようと、こういう企画もございます。このような取組によって、お

子さんの心身の安定や療養、成育環境への対応ができるかと私は考えております。

Q 柳下委員 今、知事の答弁の中で、重度の患者のお子さんたちは、感染症のおそれがあるということで外に出られないから、ビルの中なんだからいいんだということでしたけれども、私が言っているのは、小児医療センターに以前伺ったときに、当時の院長先生は城先生でしたけれども、是非見ていってくださいと言われたんですね。で、中庭に案内してくれたんです。そこには何があったかということ、子供たちに見せたくて虫を飼っているんですね。本当に子供たちがどういう療養環境の中で育つのかというね、それを非常に感じたんですね。外に出るとか出ないとかではなくて、外を見たときに、昨日来た方も、外の田んぼだとか非常に緑が多いということが、やっぱり子供にとって大事なんだというふうにお話ししておりました。

そういう面で、静かなところ、あるいは余命がないという子供たちにとって、私は、そういう環境の及ぼす、自然治癒力を高めることも含めて言っているんですけれども、知事は、静かなところよりもビルの中のほうがふさわしいというふうにおっしゃるんですか。だから、外に出ないんだから構わないというふうにとるんですか。

A 上田清司知事 決してそういうことを言ったつもりはございません。

Q 柳下委員 ビルの中にいろいろとアメニティとか人工の自然を用意するのと、緑に囲まれた中の病院というのでは、やっぱり違うというふうに思うんですね。そのところで、私は、お手紙を

紹介したように、子供たちを静かな環境の中で療養を送らせたいという、ここをお伝えしたわけなんですけれども、これについていかがですかという質問なんです。

A 上田清司知事 総合的に考えて、新都心を選択しているんです。例えば日赤でお母さんが赤ちゃんを産むとき、生まれながらにいろんな先天的な問題が起きているとき、そのまま小児病院で特別な部屋に入って処置ができるんです。いろんな意味での処置ができるんです。

しかし、そこから蓮田のほうまで運ぶことのほうが、より生命の危険度は高いんです。そういう医療の連携ということもいろんな形で考えて、我々は総合的に考えて物を申し上げております。緑もあって、それもあって、何もあってというのが一番理想かもしれませんが、聖路加病院だって、屋上庭園で最終の、いわゆる余命のないがん患者が、やっぱり屋上の庭園でゆったりと気持ちを和ませておられます。だからといって、じゃ、聖路加病院を緑豊かなところに移して多くの患者を受け止めることができるかどうかといたら、別問題になるかと思えます。

いろんな議論がありますが、総合的な判断で私たちはそういうことを申し上げているということに御理解を賜りたいと思います。

Q 柳下委員 2問目の質問ですけれども、知事は、患者のために一部機能を残すと言いますけれども、……

神谷裕之委員長 柳下委員の質疑は、ただいまの時間をもちまして終了しました。